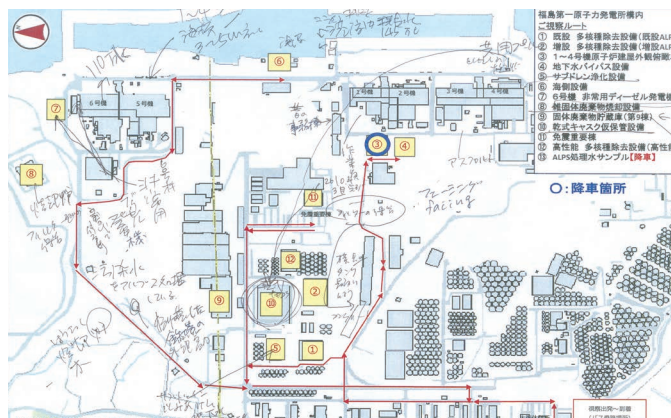




福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会 ニュースレター

1. 避難マニュアル改訂に向けて第1発電所の廃炉状況を見学しました

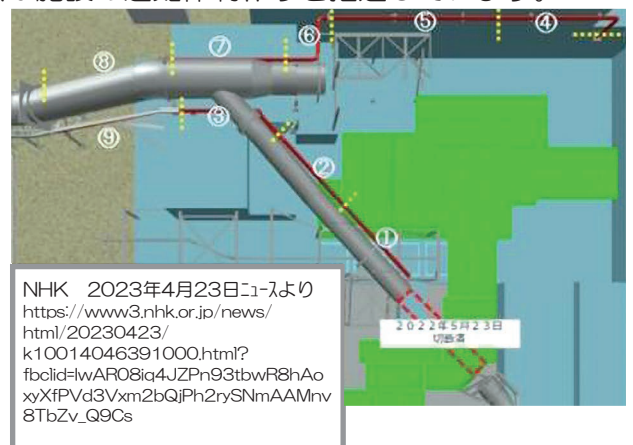
4月22日に齋藤理事と澤田共同代表が、2011年に甚大な事故を起こした東京電力福島第1原子力発電所(1f)の見学に行ってきました(巻頭写真)。これは福島県民を対象に公募されている見学会で、年に8回開催されています。廃炉状況と処理水の海洋放出に関する説明の他、厳重な管理の下、構内をバスで巡り、廃炉作業中の1号機～4号機を③のデッキ(写真↓:澤田の見学メモ)から見ました。



原子炉建屋の崩壊が危惧されている1号機や、撤去が進められている「SGTS配管」(1号機と2号機に設置されている135メートルの配管で、事故当時、放射性物質を含む気体を放出するベントをしたため内側が高放射線量に汚染)を見学しました。SGTS配管は、2022年3月～開始され1ヶ月間で26本に遠隔作業で切断して撤去する予定でした

が、たびたび中断し、切断できたのは1回にとどまっています(下図)。現在工程を見直し、廃炉作業の妨げとなっている配管97メートルのみの切断作業中です。廃炉作業は困難を極めています。

1f見学には、再度9月6日に本会の役員と福島県内の児童養護施設職員と行く予定です。目的は2012年に作成した「原子力発電所の事故にかかわる緊急時の児童養護施設向け対応マニュアル」の改訂版の作成及び、福島県内の児童養護施設の災害時相互応援協定の見直しを福島県児童福祉施設部会が行うに当たり、現状把握と長期的なリスクの予測を立てるためです。廃炉まで30年～40年と言われ続けていますが、親の保護が得られずに措置された子どもの安全を保证するために、本会が施設の避難体制作りを推進しています。



2. 卒園生に健康手帳を贈りました

2023年3月に卒園・自立した高校3年生16名と措置延長後に自立した1名、そして家庭復帰1名の子どもに健康手帳と体温計とバンドエイドを贈ることができました。このうち、1園の高校3年生の女の子は、中学3年生の時に施設に入所したのですが、これまで3年間、同じホームの高校3年生が基礎体温表の説明を受けているところを聞き、健康手帳を

渡されるところを見ていました。「今年は自分の番になった、自分がもらう時が来た」と感慨深そうに健康手帳や体温計、バンドエイドを受け取っていたそうです。そして健康手帳の記載内容を見て「ここまで細かくやってくれているんだね。ありがとう」とうれしそうな様子だったことを、この施設で働き始めて5年目になる看護師が、“達成感を感じることができた”と報告をしてくれました。

3. 卒園生に健康管理のお話をしました

3月はじめ、青葉学園の卒園生3名に、澤田共同代表が、健康手帳の使い方と施設を出て一人暮らしが始まった後、病院を受診する時に何を持って行けばよいのか、また日常的なけがや不調の時に自分でできるファーストエイドのお話をしました。さらに、一人で歩いているときの防犯についても、実技を交えながら話をしました。また、今後も甲状腺検査を受け続ける必要性について説明して、卒園後は「一

般社団法人すこやかのかいふくしま」が、健康相談に応じることも伝えました。



4. 施設を卒園した若者達の映画「REALVOICE」

2018年11月の本会の研修会にも参加した児童養護施設を卒園した当事者の山本まさこさんが、虐待された経験のある、社会的養護施設の出身者70名の若者と共に作り上げたドキュメンタリー映画「REALVOICE」(1時間28分)が無料公開されています。

<https://youtu.be/R8LhlmtvBMs>

この映画では、12年前の震災と原発事故で、小学校2年で福島から自主避難後、関西に転居した後に母親の再婚相手から暴力を受けたため、小学校5年から一時保護され、中学からは児童心理治療施設に入り、現在は社会福祉士を目指して大学に通っている女性を密着取材しています。福島にある祖父宅への訪問の場面など、原発事故の影響を考えさせられるシーンもあります。

また、施設の卒園生からのリアルボイスが織り込まれ、「もっと俺らの声を聞いてほしい」「もう少し世の中が暖かくなってくれたらな」「いろんな人に支えられたからこそ、支える側になりたい」「生きるために施設は必要だけど、子どもの声をもっと大切にしてほしい」「行政より夜の仕事で出会った人の方が信用できた」と語っています。当事者の生の声、独り立ちして生きていく中での本音を聞けます。山本さんの取材力によってリアルに描かれ、卒園生への支援の重要性を考えることができます。是非、ご覧ください。

なお、本会では2014年から卒園生の支援を開始していますが、2020年からは、「一般社団法人すこやかのかいふくしま」(代表齋藤久夫)を設立して協働しています。次号のニュースレターは、すこやかのかいふくしまとの合併号を発行予定です。

5. 第11回定時総会を開催、役員が交代しました

2023年2月4日に 第11回定時総会をオンラインで開催しました。正会員10名、賛助会員2名にご参加頂きました。

2012年4月、福島事務所を作る以前から福島に足を運んでNPOの組織づくりから担った丸光恵副代表と、2018年から役員に就任した伊藤信彦監事が役職を降りました。

お二人からメッセージを寄せてもらいました。

今期からは、理事に鈴木敏夫さん、福山裕紀子さんが加わってくださり7名体制になります。

本年度から2年間の役員は巻末をご覧ください。

丸光恵氏：兵庫県立大学看護学部教授

(2012年～2017年共同代表理事、
2018年～2022年副代表理事)

未曾有の災害と言われた東日本大震災から12年が経ちました。澤田共同代表が青葉学園を訪問した事から始った小さな活動でしたが、当初は何をすることが最も良いのか、誰もわからない手探りの状態でした。未曾有の災害に対する支援は、善意だけでも科学のみでも成り立たず、未知の出来事について、同じ視点に立って一緒に考える事が求められている様に感じました。

会の設立以来、幸いな事に、神戸元青葉学園園長（現理事）、齋藤元福島愛育園園長、伊藤元堀川愛生園園長、市川元いわき育英舎園長から必要な事を様々に教えていただく事ができました。その時々で行政や公的支援が届かない部分を担う事を第一に活動してきたと思っています。

当初の一番の強みは澤田共同代表の機動力でした。事業計画も年度途中で方向性を修正したり、支援対象者を児童養護施設の子どもと、ごくごく限られた人としたことで、今までのNPOにはない動きができていたのではないかと考えています。当初の役員は私を含めて5名で神戸氏、齋藤氏は福島の児童養護施設の園長でした。澤田代表以外は現職がある役員で構成して、人件費の割合を小さくし、頂いたご支援の殆どを子どもたちに直接還元できる事業に使うことができたのも、この会の大きな特徴だったのではないかと考えています。まだまだ活動も定まらない中、大口のご寄付を頂いた時の有難さは忘れる事ができません。この場をお借りし、改めてお礼申し上げます。

12年という長い年月を経て、当時、児童養護施設に入所中で被災したという子どもが全員卒園する日が近くなってまいりました。児童養護施設の子どもの支援だけではなく、卒園した若者のアフターケアの問題が大きくなっていくでしょう。今後の会の発展のため、役員世代交代が必要という話は、近年の会全体の課題でもありましたので、これを機に現状に合わせた支援を当事者の視点からご検討頂くために、退任することとなりました。本紙を手にとっておられる皆様が、当初より変わらぬご支援を継続されている方々であることも、本会が一貫して活動を発展、継続できた大きな推進力だったと思います。引き続き、ご支援を賜れば幸いに存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

**伊藤信彦氏：特定非営利活動法人 茨城YMCA
指定管理、つくば市立大曾根児童館 館長
(2018年～2022年 監事)**

『わが行くみち いついかに なるべきかは
つゆ知らねど、主はみこころ なしたまわん』
(讚美歌 21 463番 1節より)

2011年3月11日に起こった東日本大震災により福島県は、震災被害、津波被害に加えて原発災害というこれまでにない大きな人災に遭遇しました。地震や津波からの復興以上に、放射能汚染の影響は福島に生きる人々にとって脅威となり、今後どれだけの健康上の被害がもたらされるのかという不安と恐怖が日々の生活の中にありました。当時、棚倉町にある堀川愛生園の施設長として40名弱のこどもたちと生活をしていました。その生活は一変し、首には放射線量を計測記録する測定器をぶら下げ、夏になっても長袖の服装を推奨され、屋外のプールは放射能汚染の危惧から閉鎖、キャンプにも行けない重苦しい日々が続きました。こんな日々、日本各地から、海外から多くの方が愛生園で暮らすこどもたちにお見舞いや励ましをくださいました。

その一つに「特定非営利活動法人福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会」がありました。この団体は、県外からの支援ではなく、福島県に事務所を置き共に生活して、県外に避難することができずに児童養護施設で生活を余儀なくされているこども達を、原発事故による放射能災害から健康を守ってくださるものでした。正直なことを申し上げると最初は、どのようなものかと思いましたが、定期的に施設を訪問して低線量被曝についての講義、こどもたちだけでなく職員に対しても定期的な甲状腺検査（県の検査は2年に一度のため、間の年に実施）など、小児医療の専門的な立場からのケアをしてくださいました。また施設を巣立つこどものために「健康手帳」（後に電子化版）を作ってください、こどもたちの未来の不安への負担軽減のために、具体的で多様な手立てをしてくださいました。

私がこの会の監事に就任したのは、県内8児童養護施設とNPOの働きが相互理解のもとに円滑に進められる一助となればとの思いからでした。

10年間で施設の立場からすると、予想をはるかに上回る大きな恩恵をいただきました。大きなこととしては「児童支援記録システム すこやか日誌（健康手帳電子化システム拡張版）」、それまで施設職員が苦勞して書き溜めていた日誌を電子化することで、日々の業務が軽減されました。この開発作業から、資金援助のスポンサーとのマッチングま

で、全てをしてくださいました。

私は、2021年3月に堀川愛生園施設長を退任して茨城県に移住、一つの働きの区切りとして監事の任も辞することといたしました。今後は県外

からこの働きを見守り、微力ながら会をお支えしていければと思っています。

『そなたもう 主のみちを ふみて行かん、ひとすじに。』（讚美歌21 同）

6. 会費納入、寄付・未使用切手などのご寄付を頂いた皆様（敬称略 順不同） 2022年12月1日～2023年6月15日

国際基督教大学高等学校キリスト教活動委員会、オリーブの木2010、児童養護施設唐池学園募金箱、東京ハナミズキ、はらからの歌声、感じる心を大切に作る会、日本基督教団下落合教会、下落合教会学校、日本基督教団夙川東教会、日本基督教団名古屋東教会、日本キリスト教団大泉教会、日本キリスト教団西千葉教会、日本キリスト教団南山教会、日本聖公会東北教区婦人会、聖公会GFS、東光学園内聖ロカ教会子ども礼拝、日本伝道福音教団新潟聖書教会、戸塚ルーテル教会、戸塚ルーテル教会教会学校、戸塚ルーテル教会附属幼稚園、日本ルーテル教団関東地区教会会議、日本ルーテル教団池上ルーテル教会、山のハム工房グローバル、児童養護施設堀川愛生園、ミホプロジェクト、へるす出版「小児看護」編集部

赤坂 康子、秋山 道子、阿久澤 麻理子、アクツ ミツノリ、足立 悦子、荒木 暁子、生田 和正、池口 佳子、池田 香里、石川 信克、イシバシ アツコ、石原 潔、石原昌子、石渡 美砂子、磯部 和子、井手 初穂、伊藤 良子、犬塚 茂生、猪熊 京子、今井 真純、今泉 郷子、岩田 真奈・和士・恵実、宇井 志緒利、牛尾 幸世、歌津 文男、内丸 ちづ子、宇野田 陽子、榎本 順一、蝦名 美智子、大島 庸子、太田 信吉・智恵子・愛智、大谷 尚子、大塚 千織、大橋 めぐみ、大畑 美和子、岡田 友子、小川 昌之、沖 菜穂子、奥野 順子、小熊 三重子、小此木 隆雄・真知子、小田 美乃里、小尾 尚子、角地 弘子、加島 春来、数間 恵子、片岡 安子、加藤 典子、金澤 トシ子、金子 みどり、川瀬 愛、木村 晶子、木村 泰幸、國澤 尚子、河野 道太、神津 陽子、神戸 信行、小林 美亜、小林 好美子、小松 美穂子、小松 美智子、権田 倫子、近藤 真由美、齋藤 久夫、齋藤 みさ子、齋藤 泰子、佐川 真理子、笹鹿 美帆子、佐野 むね、澤井 映美、澤田 稔、志賀 由美、重富 由美子、柴田 恵子、嶋津 徹・琴音、清水 清美、下澤 いづみ、菅波 靖夫、杉田 教夫、鈴木 栄一、鈴木 千衣、鈴木 敏夫、鈴木 亮、セキモト ミナコ、高木 史江、高坂 美枝、高橋 千治・玲子、高橋 みつ子、高柳 允子、高山 喜美子、滝口 香奈子、田口 恵美子、武井 めぐみ、立川 洪介・満里、田知本 みどり、田中 とよ美、田上 文子、土屋 秀、津山 春香・夏維、戸舘 陽子、中島 隆宏・祐子、中島 美津子、長島 令子、永田 栄子、中田 勇二、中野 陽子、長畑 左樹子、長松 康子、中山 珠枝、名取 智子、鳴海 喜代子、西垣 二一、西田 志穂、畑野 研太郎、林原 健治、原 久子、原瀬 昌久・光子・岳・耕・里、福島 洋子、古川 恵一・祐子、細谷 たき子、前島 忻治、舛岡 泉、増田 高子、町田 洋子、松岡 恵、松平 信子、松原 悦子、馬淵 由季子、丸 光恵、三谷 美香、三原 翠、宮田 美恵、宮原 多枝子、宮本 信江、武藤 房枝、村川 佳代、村田 貴志子、村田 恵子、村本 淳子、守屋 正子、安江 真佐子、安江 一美、八尋 尚子、山崎 慶子、山田 洋、山屋 玲子、湯浅 資之、吉村 勉、吉本 幸子、和田 信明、渡邊 智子、匿名4名

助成金：日本ルーテル教団「健康手帳・体温計ほか贈呈事業」

過去のニュースレターはホームページからご覧いただけます <http://www.fukujidou.org>

福島県の児童養護施設の子どもの健康を考える会



- 代表理事 澤田 和美（福島事務所 事務局長）
- 塩飽 仁（東北大学大学院 小児看護学 教授）
- 理事 神戸 信行（児童養護施設 青葉学園 常務理事）
- 齋藤 久夫（一般社団法人すこやか会の会ふくしま代表、元児童養護施設 福島愛育園施設長）
- 鈴木 敏夫（株式会社ダイナックス環境研究所）
- 福山 裕紀子（日本キリスト教団 会津若松教会 牧師）
- 監事 鈴木 栄一（児童養護施設 白河学園 施設長、福島県児童福祉部会部会長）

事務所住所・連絡先 〒960-8055 福島市野田町6-4-74-5 メゾンオーブC203
e-mail: fukujidou@yahoo.co.jp 電話・FAX: 024 - 573 - 2939

お振込先

♡ゆうちょ銀行

店名：二二九店(店番号229)
種類：当座預金
番号：02220 - 2 - 118684
名称：福島児童養護施設の子どもの健康を考える会

♡大東銀行

店名：福島西支店(店番号047)
種類：普通預金
番号：1303901
名称：福児童 代表 澤田和美

♡三井住友銀行

店名：白山支店(店番号228)
種類：普通
番号：6854164
名称：福児童 代表 澤田和美